

## 別紙

### マイクロンメモリ ジャパン株式会社温室効果ガス削減計画

#### 1 事業の概要

##### (1) 事業所の名称

マイクロンメモリ ジャパン株式会社 Fab15

##### (2) 事業所の所在地

広島県東広島市吉川工業団地7番10号

##### (3) 業種

集積回路製造業 (2814)

##### (4) 事業所位置図

別紙のとおり

#### 2 計画の期間

本計画の期間は、平成15(2003)年度を基準年度とし、平成26(2014)年度の1年間とする。

#### 3 計画の基本的な方向

マイクロンは環境品質を維持し、従業員の健康、安全およびセキュリティを守ることに努めます。我々はこれらのコミットメントを果たすべく、継続的な改善に積極的に取り組みます。

我々は業務上の疾病、労働災害、会社資産の損失の防止に努め、安全かつ健康で安心できる職場を維持します。

また、大気、水、土地およびエネルギーへの影響を軽減すべく、事業計画や製造の開始段階で対策を講ずることで、当社事業が環境に与える影響を最小限に抑えるよう努めます。

当社の全リーダーは、規則に準拠し安全で安心できる職場をリードし、実現、維持する事に責任を負っており、すべての経営幹部、従業員、派遣/請負社員は、EHSSに関わる危険性やリスクの特定、排除、管理に協力して対応する事が求められます。

すべての従業員、派遣/請負社員は、「マイクロン事業倫理規定 (Micron's Code of Business Conduct and Ethics)」に盛り込まれた事項を含め、関連するEHSS手順および適用される法的要件に従わねばなりません。

これらのEHSSポリシーや施策に対するマイクロンのコミットメントは、我々の職場、周辺環境、そして私たちが生活する地域社会にとっての利益をもたらすものです。

#### 4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

##### 【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果 ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO <sub>2</sub> )		
	平成 2 年度	基準年度 平成 15 年度	直近年度 平成 24 年度
二酸化炭素		217,000	424,000

##### 【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果 ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO <sub>2</sub> )		
	平成 2 年度	基準年度 平成 年度	直近年度 平成 年度
二酸化炭素			

##### 【その他温室効果ガス】

温室効果 ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO <sub>2</sub> )		
	平成 2 年度	基準年度 平成 15 年度	直近年度 平成 24 年度
メタン		6	6,770
一酸化二窒素		212	1,450
HFC PFC SF <sub>6</sub>		187,000	176,000

## 5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO<sub>2</sub>) , 削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 15 年度)		削減目標		目標年度 (平成 26 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)	
エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
メタン					
一酸化二窒素					
フロン類	221,000	9.5	21,000	200,000	
温室効果ガス 実排出量総計	221,000	9.5	21,000	200,000	
温室効果ガス みなし排出量					
目標設定の考え方	基準年度比10%削減に相当する200,000 t-CO <sub>2</sub> 以下とする。 対象ガス：PFC (CF <sub>4</sub> , C <sub>2</sub> F <sub>6</sub> , C <sub>3</sub> F <sub>8</sub> , C <sub>4</sub> F <sub>8</sub> ) , HFC (CHF <sub>3</sub> ) , SF <sub>6</sub> , NF <sub>3</sub> の7種類 温暖化係数は2001年制定値使用 (半導体業界基準)				

※ 削減率 (b) = (c) / (a) × 100    削減量 (c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標： ウェハ投入枚数 (200mmウェハ換算)

単位：排出量 (t-CO<sub>2</sub>) , 原単位置 (kg等) , 削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 15 年度)			原単位 削減目標	目標年度 (平成 26 年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	224,000	810,000	0.28	46	450,000	3,000,000	0.15
非エネルギー起源CO <sub>2</sub>							
メタン							
一酸化二窒素							
フロン類							
総排出量	224,000	810,000	0.28	46	450,000	3,000,000	0.15
エネルギー消費原単位 (原油換算kl)							
目標設定の考え方	エネルギー起源CO <sub>2</sub> は原単位ベース、直近の実績を考慮し、基準年度比46%削減とする。なお、基準年度排出量は、会社体制変更となった平成15年度下期の2倍値を使用している。						

※ 削減率 (d) = { (c) - (g) } / (c) × 100    原単位 (c) = (a) / (b)    原単位見込 (g) = (e) / (f)

## 6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

### ○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	数値目標(2013年度)	具体的な取組み
1	エネルギー原単位の改善	CO <sub>2</sub> 排出量・ウェハ投入枚数原単位03年度下期比54%以下	高効率CGSの稼働、生産性の向上
2	PFC使用量の削減	PFC使用量 03年度下期比90%以下 (生産規模は340%以上に拡大)	排ガス除害装置の積極導入及び安定稼働
3			
4			

※原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

### ○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

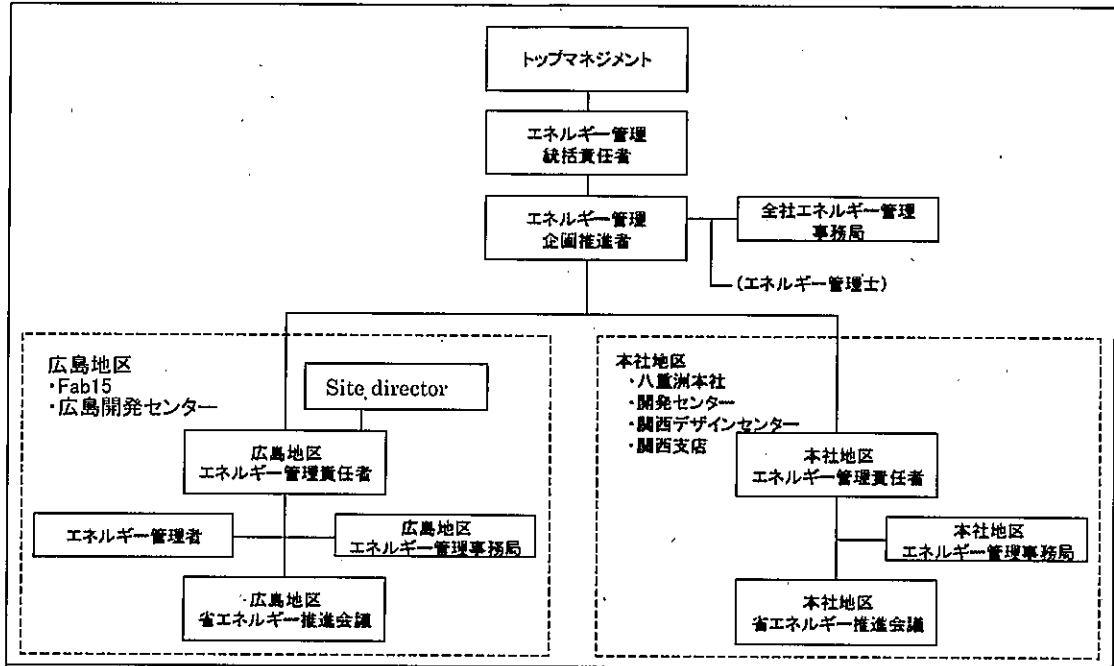
### ○ その他の取組み

	項目	数値目標(2013年度)	具体的な取組み
1	化学物質使用量原単位の改善	化学物質使用量ウェハ投入枚数原単位03年度下期比67%以下	原材料使用量の削減 排水処理薬品使用量の削減 生産性の向上
2	水使用量原単位の改善	水購入量ウェハ投入枚数原単位03年度下期比65%以下	水資源回収再利用推進 生産性の向上
3	廃棄物排出量原単位の改善	廃棄物排出量ウェハ投入枚数原単位03年度下期比77%以下	原材料使用量の削減 排水処理薬品使用量の削減 廃棄物の適正処理、生産性の向上

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

## 7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

### (1) 推進・点検体制



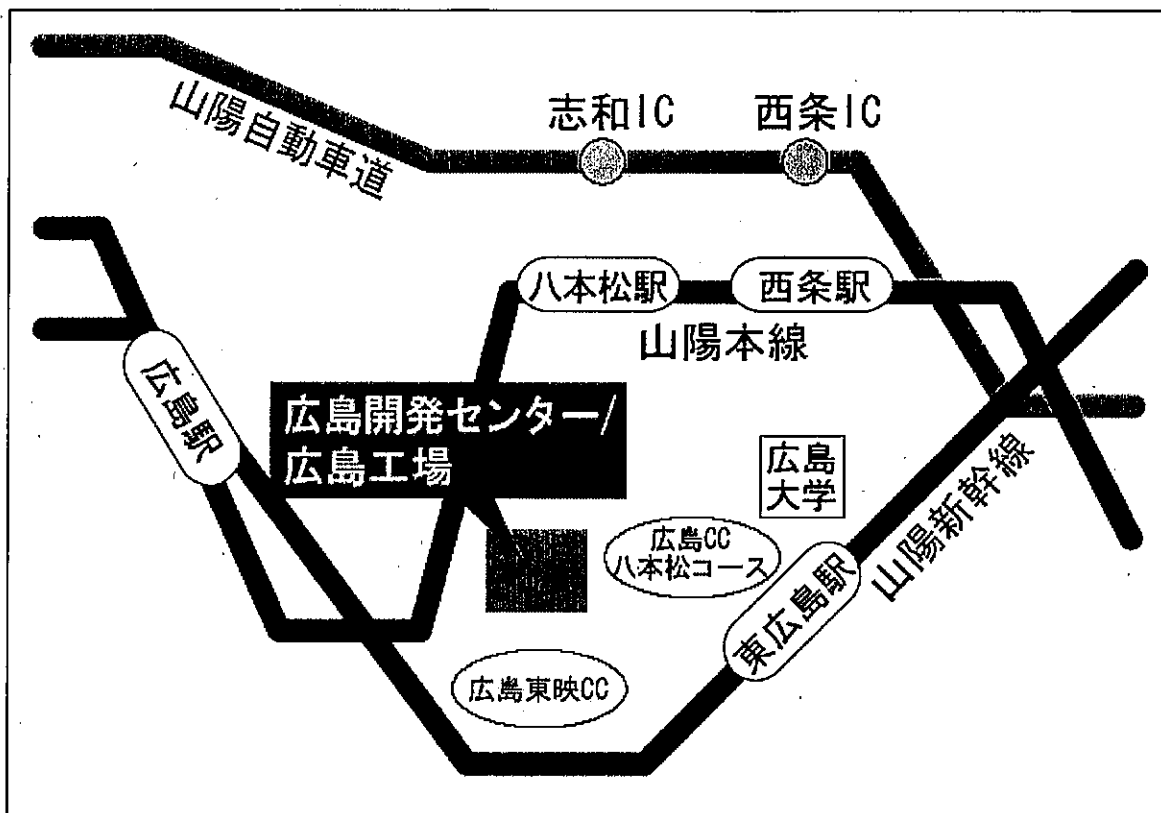
### (2) 実施状況の点検・評価

当社の環境マネジメントシステムに基づいて、環境目的目標の項目として推進しており、実績集計は月単位で行い、達成状況を社内報告している。また、年度のまとめはマネジメントレビューにて実施している。

### (3) 計画の公表

- ・外部からの開示要求に対して公表する

## 別紙 工場位置図



- 空路

広島空港よりタクシーで約40分

- JR

山陽新幹線 東広島駅よりタクシーで約20分

広島駅 — 約35分 (山陽本線) — 西条駅よりタクシーで約20分

広島駅 — 約35分 (山陽本線) — 八本松駅よりタクシーで約20分